

# 食料品関係品目及び鋼船に係る検証

平成30年10月22日  
統計委員会担当室

# I. 改定差上位品目の特徴点（1）：製造業以外における生産が無視できない

- 家計消費支出における第1次年次推計と第2次年次推計の改定差が大きい上位品目（SNA・コモ6桁分類＝「産業連関表」基本分類に相当）には、「清涼飲料水」「そう菜・すし・弁当」「菓子類」「パン類」「肉加工品」「冷凍魚介類」など食料品が多く含まれている。
- このうち、「そう菜・すし・弁当」「菓子類」「パン類」（下図の黄色）については、  
 ①製造小売など製造業以外による生産が一定の比率（2割程度）を占めている。  
 これらの品目では、②「工業統計調査」のみでは、生産活動をフルに捕捉するのは困難である。

## 2011年の出荷額（生産額）の比較

単位 億円

	基準年推計				製造業比率 (b) / (a)	第2次年次推計	
	産業連関表 合計 (a)	うち 製造業分 (b)	製造小売分	農業経営体分		工業統計 (注) (c)	カバレッジ (c) / (a)
清涼飲料水	25,830	25,830			100.0	19,615	75.9
そう菜・すし・弁当	21,360	16,622	4,594	144	77.8	16,572	77.6
菓子類	30,012	25,096	4,826	90	83.6	29,325	97.7
パン類	15,072	12,596	2,454	22	83.6	12,567	83.4
肉加工品	8,377	7,875		502	94.0	6,924	82.7
冷凍魚介類	10,206	10,206			100.0	8,494	83.2
鋼船	21,417	21,417			100.0	21,701	101.3

(注) 2011年は、経済センサス実施年であるため、「経済センサス-活動調査」の製造業分（品目編）の計数である。

「製造業分」には、「半製品及び仕掛品」を含む。以下、同様。

「鋼船」は防衛装備品を除く。以下、同様。

# I. 改定差上位品目の特徴点（2）：生産活動のカバレッジが十分ではない

- 上記の3品目に加え、「清涼飲料水」「肉加工品」「冷凍魚介類」（下図の緑色）についても、生産活動のカバレッジが十分ではない。
  - こうした捕捉漏れが生じる背景としては、以下の可能性が考えられる。
    - 1) 製造業以外からの委託生産のウエイトが高く、その分が「工業統計調査」には計上されていない可能性（「清涼飲料水」）
    - 2) 製造業以外の者による製造が行われているため、工業統計調査と他の調査の対象事業所が異なる可能性（「肉加工品」「冷凍魚介類」）
  - 一部品目では、「工業統計調査」と「経済センサス-活動調査」との間で出荷額（対象事業所数）に段差がある。
- 対象品目では、「鋼船」のみが①製造業の生産シェア、②工業統計調査のカバレッジの双方とも高くなっている。

## 2011年の出荷額（生産額）の比較

単位 億円

	基準年推計				第2次年次推計		
	産業連関表 合計 (a)	うち 製造業分 (b)	製造小売分	農業経営体分	工業統計 (注) (c)	カバレッジ (c) / (a)	製造業比率 (b) / (a)
清涼飲料水	25,830	25,830			19,615	75.9	100.0
そう菜・すし・弁当	21,360	16,622	4,594	144	16,572	77.6	77.8
菓子類	30,012	25,096	4,826	90	29,325	97.7	83.6
パン類	15,072	12,596	2,454	22	12,567	83.4	83.6
肉加工品	8,377	7,875		502	6,924	82.7	94.0
冷凍魚介類	10,206	10,206			8,494	83.2	100.0
鋼船	21,417	21,417			21,701	101.3	100.0

(注) 2011年は、経済センサス実施年であるため、「経済センサス-活動調査」の製造業分（品目編）の計数である。

# I. 改定差上位品目の特徴点（3）：各府省の生産動態統計の整備が十分ではない

- 第1次年次推計に利用する「生産動態統計」の整備は十分ではない。対象7品目のうち、**政府統計として「生産動態統計」が整備されているのは、「冷凍魚介類」と「鋼船」のみ**。他の食料品5品目には、「生産動態統計」は存在しない。
- 「清涼飲料水」「菓子類」「肉加工品」などでは、**生産額の把握に業界統計を幅広く利用**。ただし、**業界統計のカバレッジや生産額の範囲（商業マージンの混入など）などの確認が必要**。
- 一方、「**そう菜・すし・弁当」「パン類**」については、**生産動態統計が存在しない**うえに、**カバレッジが広い業界統計も作成されておらず、生産額の把握は容易ではない**。  
 —— 「食品産業動態調査」における「パン類」の統計は、小麦粉の使用量の統計。生産量の統計ではない。
- また、「各府省の生産動態統計」や「その他の統計」の一部は、**生産量のみ**の統計であり、**生産額の把握には、価格データ（「東京都中央卸売市場年報」「企業物価指数」等）を乗じる必要がある**。精度面で課題がある可能性。

	各府省の生産動態統計	業界統計	その他の統計
清涼飲料水	なし	「清涼飲料水関係統計」	—
そう菜・すし・弁当	なし	なし	「惣菜白書」
菓子類	なし	「菓子統計」など	—
パン類	なし	なし	農水省委託「食品産業動態調査」
肉加工品	なし	「酒類食品統計年報」	農水省委託「食品産業動態調査」
冷凍魚介類	農水省「水産物流通調査」	「冷凍食品関連統計データ」	—
鋼船	国交省「造船造機統計調査」		—

# I. 改定差上位品目の特徴点（4）：SNA・産業連関表の基礎統計はまちまち

- SNA第1次年次推計、第2次年次推計、基準年の産業連関表における基礎統計はまちまちであり、第1次年次推計：「生産動態統計」⇒第2次年次推計：「工業統計調査」⇒産業連関表：「経済センサス-活動調査（製造業分=工業統計調査に相当）」といった、製造業で標準的である構成となっている品目はない。
- むしろ、第1次年次推計と基準年の産業連関表においては、ほぼ同一の業界統計が利用されている品目（「清涼飲料水」「菓子類」「肉加工品」）や、同一の生産動態統計が利用されている品目（「鋼船」）が多くなっている。
- また、第1次年次推計のうち、「そう菜・すし・弁当」では、利用可能な統計が存在しないほか、「パン類」でも、「パンの生産は小麦粉の使用量に比例する」との前提で推計が行われている。
- 一方、第2次年次推計では、全品目で「工業統計調査」が延長推計に利用されている。

（SNA第1次年次推計・第2次年次推計・基準年の産業連関表の基礎統計）

	SNA・第1次年次推計	SNA・第2次年次推計	基準年・産業連関表（主なもの）
清涼飲料水	清涼飲料水関係統計資料（業界統計）	工業統計調査	清涼飲料水関係統計資料（業界統計）
そう菜・すし・弁当	なし	工業統計調査	経済センサス活動調査（製造業分に製造小売分などを加算）
菓子類	菓子統計	工業統計調査	菓子統計ほか各種業界統計
パン類	食品産業動態調査	工業統計調査	経済センサス活動調査（製造業分に製造小売分などを加算）
肉加工品	食品産業動態調査	工業統計調査	酒類食品統計年報（食品産業動態調査より推計）
冷凍魚介類	食料需給表・冷凍食品に関連する統計データ	工業統計調査	水産物流通調査・冷凍食品に関連する統計データ・東京都中央卸売市場年報
鋼船	造船造機統計調査	工業統計調査	造船造機統計調査

## Ⅱ. 改定差上位品目の改善に向けた検討の方向性（暫定案）：改定差の要因検証

	第1次年次推計の基礎統計は「工業統計調査」と変動パターンが類似しているか？	第1次年次推計の基礎統計のカバレッジは十分か？	「工業統計調査」の対象か？
清涼飲料水	変動パターンにかい離あり	業界統計のカバレッジは高い。 ただし、商業マージンが混入。 分類がコモ品目分類と一致しない	製造業以外の者からの委託生産分が対象外
そう菜・すし・弁当	(比較不可能)	(統計が存在しない)	
菓子類	変動パターンにかい離あり	現状は一部の業界統計（菓子統計）のみを利用。カバレッジは不十分	製造小売分が対象外 (SNA推計における推計方法の確認が必要)
パン類		基礎統計は生産量ではなく、小麦粉の使用量の統計。	
肉加工品		産業連関表と同一の作成方法であり、カバレッジは比較的高い	
冷凍魚介類		未詳 (産業連関表と同一の作成方法が可能であり、その場合のカバレッジは比較的高い)	畜産業、漁業による生産分は対象外 (工業統計調査と経済センサスのかい離検証が必要)
鋼船	造船造機統計の回収率低下により、カバレッジが低下している	カバレッジは高い	